

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年6月19日
【会社名】	株式会社ゲームカードホールディングス (旧会社名 株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス)
【英訳名】	Gamecard Holdings, Inc. (旧英訳名 Gamecard-Joyco Holdings, Inc.) (注) 2025年6月19日開催の定時株主総会の決議により、2025年10月1日から会社名及び英訳名を上記の通り変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 聡
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿六丁目18番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長 鈴木 聡は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当連結会計年度の末日である2026年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性並びにその発生可能性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社グループは、パチンコプリペイドカードシステム関連事業を運営しており、当社グループの業種、事業の特性等を考慮して、前連結会計年度の売上高の概ね2/3に達している事業拠点を「重要な事業拠点」として選定しております。なお、当該売上高の2/3の選定対象から外れた拠点について、金額的及び質的影響並びにその発生可能性を考慮して重要性があると考えられる場合は、個別に評価対象に追加しております。

また、当該重要な事業拠点における企業の事業目的に大きく関わる勘定科目については、当社グループの業種、事業の特性等を考慮して、売上高、売掛金及び棚卸資産を基本的な評価対象としたうえで、金額的及び質的重要性のある勘定科目と、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスを追加しました。

さらに、リスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスについて、規制環境や事業及びリスクの変化並びに財務報告への影響を勘案し、重要性があると判断した場合は、当該業務プロセスを評価対象に追加しております。

3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4【付記事項】

該当事項はありません。

5【特記事項】

該当事項はありません。